

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部春季号<第75号>(平成20年4月15日発行)

巻頭言

技術士 そして技術士会

九州支部 副支部長 長野 紘一
(建設・福岡)



1：人の進化と技術士会

「長野は進化していないな～」と中学の理科の先生に言われたことがあります。人間の素がサルだと言う生理的な反応だけでなく、人がアフリカ大陸から散らばって進化していったのなら、言葉に共通性があるのではないかと、先生に反論した答えが「進化していないな～」となったのです。

私は少なくとも「助けて～」とか「逃げろ」とか「危ない」とか命に係わる言葉は、本能的に出るものだからどこか共通点がある筈だと今でも思っています。

ところで、なぜ「人」が万物の霊長に成りえたのか、と言う命題に対して「人類進化ばあちゃん説」があります。人が他の動物と異なる点の一つは「3世代同居」です。親から子へ知恵の伝承が一定レベルの繰り返しである動物の世界と違って、人の世界では、祖母(祖父)・親・孫・のサイクルで知恵の積み重ねがおこなわれます。この仕組みが人を万物の霊長に育て上げたと言う説です。

われわれも、「会」を活性化させ、進化させるにはやはり「老・壮・若3世代同居」が理想であります。また、そうすべきだと考えます。しかし現実には若者の参加が少なく、その理由は多忙と言う物理的なこと以外に年をとった役員の強圧的な発言が煩わしくて、会の行事に出たくないことも大きな要因だと言われています。このため役員の定年制も検討されております。

確かに、「とし」の為せる業かもしれませんが、単に話の仕方の問題とも考えられます。また、いろいろな役員を経験した結果、知らず知らずに知識が溢れ出ているのかもしれませんが。いずれにしろ、個人の資質が大いに関係するのではないのでしょうか。せっかく役員の皆さんが、ボランティアの心で行動しているのにただ機械的に線を引けばよいのか、もう少しアットホームに出来ないのかとも思います。

2：群れと技術士会

先日TVでハヤブサに襲われているムクドリが、自分の身を守るために集団で飛び回っている姿を見ました。余り獲物が多いとハヤブサは、どれに狙いを定めて良いのか戸惑ってうまく捕獲できないそうです。魚も何十万、何百万個の卵を生みますが、これもまた、自分たちの種を残すための命の選択です。正に「数は力なり」です。そう言えば、人も結構群れを作りたがるのではないのでしょうか。こう言う私も、「何かのメリットを期待して」、「精神的な安息を求めて」、「余り気が進まないけど義理と人情で」と、いろいろの理由で群れています。

その一つが技術士会です。その技術士会の加入率は、設立して50年以上も経った今も20%程度に低迷しています。そこで本部は3年程前にKK(会員拡大・活性化)委員会を立ち上げ、「2008年度は2000名の会員を増やしましょう」と声を上げております。(私も昨年6月からKK委員を務めております)支部でも、メリットは何なのか、企業内技術士へのアプローチは、公務員技術士への対応は、退会者の引き留め策は、等々ワイワイやっておりますがこれと言った妙案にたどり着いてはいません。

ただ、九州支部は技術士の数は少ないけれど、加入率は全国平均の倍近く35%以上になっております。これは勿論先輩たちのご苦勞によるところが大きいですが、九州人の性格も手伝って案外「義理と人情」派も多いのではないかと推測しております。

ご存知のように、日本技術士会は本年12月からの「新公益法人認定」をめざしております。これには「社会に広く貢献する」ことが求められており、そのためには会員を増やしていくことも益々重要となります。しかし、会員拡大には今のところ王道はありません。あるとすれば、日ごろから仲間を増やす努力を地道に続けていくことではないのでしょうか。(乞う 御協力です)

技術士の高等教育支援への期待

宮崎地区代表幹事 出口 近士
(建設、総合技術監理・宮崎)



私が勤務する宮崎大学工学部土木環境工学科での技術者教育と「技術士」との連携について話題提供します。

工学部教育において、国際的に通用できる高度技術者の育成が要求されてきています。そのため、大学等の高等教育機関における技術者教育プログラムが国際水準を満たしているかを公的に認定する日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education）が1999年に設立され、2006年度現在で、144教育機関にわたる346プログラムが認定されています。

宮崎大学工学部土木環境工学科では、従来の土木工学に環境保全技術を加えて、「自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤を充実・保全するための教育研究」を実施し、“持続可能な社会を実現に貢献できる高度技術者（ARCH：Active, Responsible, Creative and Humane Engineer）”を育成しています。このARCH教育プログラムが2003年度に認定され、「土木および土木関連分野（2007年度現在50プログラムが認定）」では全国で9番目の認定でした。

このJABEE教育への対応もあり、本学科の教員6名が各自の研究分野に近い分野の技術士資格（建設部門：4名／河川・港湾及び海岸／コンクリート及び鋼構造／トンネル／道路／都市計画及び地方計画、上下水道部門：1名、衛生工学部門：1名）を保有しており、その知識を技術者教育に活用しています。これは全教員の40％に該当し、全国でも高い保有比率です。また、ARCH教育プログラムの学習教育目標として“技術者としての倫理”を設定し、「技術者倫理と経営工学」を開講しています。これと「測量学」の講師として「技術士」による教育支援を受け、教育効果を上げています。

しかし支援を受けるだけでは一方通行ですので、

学生に（社）土木学会が2003年度より実施しています認定技術者資格制度の「2級技術者資格」の受験を推奨するとともに、教員と「NPOみやざき技術士の会」の会員のみなさんとの共同で技術者資格支援セミナーを講義終了後の夜間や土曜日に実施し、これを社会人技術者に公開しています。その効果もあり、これを受講した方から多くの「技術士補・技術士」が育っています。

技術士法には、技術士の資質向上の責務として「技術士は、常に、その業務に関して有する知識及び技能の水準を向上させ、その他その資質の向上を図るよう努めなければならない。」と規定されています。また“JABEE認定された教育プログラムの修了者”は、通常4年の実務（大学院修了者は、修士課程の2年間がこれに含まれる）を経て、技術士第二次試験を受験できるようになります。この間の“修習技術者”には、「幅広い知識」、「課題解決能力」、「経営・監理能力」や「国際性」などを育成することが求められています。

これらは所属組織における技術者教育上での責務と課題とされ、この初期専門能力開発の4年間には修士課程の2年間が含まれます。このため、本学の工学研究科修士課程においてもこれらの能力開発が要求されていることになります。さらに、修士課程の教育プログラムもJABEE認定になる流れもあります。また大学院教育の実質化も加速してきております。加えて、国際化の中でAPEC ENGINEER取得も技術資格キャリアアップの重要な位置を占めると思います。

このような流れの中で、学部レベルと同様に大学院修士課程においても、大学院生の教育と、社会人技術者の技術者資格キャリアアップと連動・協調した教育プログラムを開発する必要がある、一層の「技術士」の教育支援・参画が望まれます。

平成19年度第5回理事会報告

(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長

是永 逸生（機械、総合技術監理・北九州）



1. 日時：H20.1.17 13:00～17:00

於：葺出第二ビル会議室

2. 議題

2. 1) 審議事項

1. H20年度事業計画・収支予算について
2. 臨時総会の日時・議題について
3. EMFエンジニア・モニタリング委員会委員の委嘱について
4. 委員会委員の異動の移動について

2. 2) 報告事項

1. H19年度技術士第一次試験結果について
2. H20年度技術士試験日程について
3. 規制改革会議への要望提出結果について
4. 「技術監査制度」に関する調査（中間報告）
5. 技術管理者名義借り問題のその後の状況について
6. 常設委員会等報告
7. 会員等の入退会状況

3. 議事結果

注：配布資料は九州支部事務局保管

(1) H20年度事業計画書・収支予算について

(事業委員会)【資料No.1】

3月13日開催の臨時総会に提出の予定。技術士法制定50周年記念行事での討議結果と公益法人改革を配慮して下記の3つの柱に取り組む。

①社会に向けた情報発信の強化⇒広報委員会：産官学、大学《試験》、社会との接点を重視

②技術士の活用促進⇒第3期科学技術基本計画“モノから人へ。CPD活動の一層の推進。科学技術コミュニケーター、業務経歴データベース

③社会貢献事業の推進⇒政策委員会：技術士会イメージ発信、技術士

ビジョン21、プロフェッション宣言⇒『公益法人改革』、定款、全体組織のあり方検討

◎収支予算

- ①会員増加1,000名を見込み。会員数12,420名、準会員B3,750名を見込み
- ②対外的情報発信活動費新設、講演会・見学会開催補助費・修習技術者支援費を増加、青年技術士活動費新設、支部交付金増加（会員増による）
- ③特別会計《試験》財政はストックあるが受験者数減少 約2億円／年の為3年後に破綻

(2) 臨時総会の開催日時・議題 【資料No.2】

・日時：H20.3.13(木) 15:00～16:30

於：虎ノ門パストラル

・議題：第1号議案

平成20年度事業計画および収支予算

(3) EMFエンジニア・モニタリング委員会委員委嘱 (国際特別委員会)【資料No.3】

・国際特別委員会の管轄で池田駿介東工大教授以下12名を委嘱

(4) 委員会委員の異動（会長） 【資料No.4】

(常設)業務委員会、(特別)国際委員会、(実行)日韓技術士会、青年技術士会の委員の退任、委嘱の紹介あるも、九州支部関係は対象なし。

(5) 平成19年度第1次試験結果 【資料No.5】

受験申込者：34,150名 ▲6,539

電気電子：66.1% 24.8%

合格者：14,848名 +5,142

建設 : 50.9% 19.5%
合格率 : 53.7% 30.2%
環境 : 50.2% 29.7%
平均年齢 : 36.4歳

◎二次試験合格発表 : 3月7日⇒九州支部歓迎会 3月15日 (一次・二次合同) 至急連絡要

◎平成20年度技術士試験日程決定 【資料No.6】

- ①申込書配布 : 第二次試験 (4/1)
第一次試験 (6/2)
②筆記試験 : 第二次試験 (8/2,3)
第一次試験 (10/13)

(6) 規制改革会議への要望・回答及び更なる意見等の提出 (業務委員会) 【資料No.7】

・有価証券報告書関連、・水道法関連、に対して技術士の活用を提案するも実現せず。

(7) 技術監査に関する調査 (中間報告)

(業務委員会) 【資料No.8】

建築関係の監査業務、ISO系の認証・監査システム、JABEE等教育システムの監査システムに加えて、下記に示す技術分野に新しい監査を導入の動きあり。

- ①情報セキュリティ監査システム
②環境報告書の第三者監査
③知的財産報告書

実現するためには対象分野選定、技術士資格プラスアルファ、運営組織形成等が必要

運営組織の例として、九州地区の第三者認証プロジェクトの状況を報告する。

(8) 技術管理者名義借り問題

(事務局) 【資料No.9】

『国交省ネガティブ情報検索システム』から検索して22件の行政処分企業あり

(9) 常設委員会等報告 【資料No.10】

- ①倫理委員会 : 名誉会員推薦の評点について、追加の案あり。資格支部会員は不利との意見。
②政策委員会 : 「本会の目的・基本事項制定小委員会」を設置する。

公益法人制度改革 ; H20年12月1日法律施行に対してマクロスケジュール通り推進する。

⇒部門・部会の見直、支部組織、代議員制度等前期理事が保留にした項目の処理が必要

③財務委員会 : 特別会計、第1次試験受験者大幅減で事業費収支は大幅赤字。国債継続購入

④事業委員会 : 事業計画小委員会で20年度計画作成。CPDガイドブック (第5版) を4月に発行

⑤広報委員会 : 表紙デザイン変更、支部情報掲載予定。通巻500号記念誌を10月発行予定

⑥業務委員会 : 技術士業務拡大の提言、技術監査制度の調査、「業務委員会運営の手引」作成

⑦報酬委員会 : 日決め方式1日当り報酬額が一人歩き。ワーキンググループで実態調査

⑧国際特別委員会 : FEISEAPの組織は継続。IEM監査はAPEC, EMF個々に委員を委嘱

⑨会員拡大・技術士活性化特別委員会 : 受験者拡大、会員拡大、技術士活性化を推進中

(10) 会員・準員等の推移 (h19/10,11⇒11月末現在) (事務局) 【資料No.11】

会員数 : 12,335名、入会 : 69名、退会 : 109名、九州支部内の入退会等一覧 (平成19年10月 : 入会2名、退会9名、)
(平成19年11月 : 入会2名、復帰1名、退会2名)

会員情報の問合せ

会員情報の問合せは、次のようになっています。

支部会員 : ①本部のホームページの「会員コーナー」参照

②所属の部会長 (第7部会を除く) か、所属の地区代表幹事に問合せ

協賛会員 : ①所属の部会長 (第7部会を除く) か、所属の地区代表幹事に問合せ

第1部会長	黒江浩
第2部会長	佐竹芳郎
第3部会長	和田洋二
第4部会長	小宮信行
第5部会長	吉木久人
第6部会長	松浦茂雄
福岡地区代表幹事	深見一男
北九州地区代表幹事	松原好直
佐賀地区代表幹事	宮副一之
長崎地区代表幹事	大橋義美
熊本地区代表幹事	加来雄一
大分地区代表幹事	冷川久敏
宮崎地区代表幹事	出口近士
鹿児島地区代表幹事	後藤祐一郎

平成20年度 1 月度 拡大・技術士活性化推進委員会概要

(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長
是永 逸生（機械、総合技術監理・北九州）

1. 日時：H20.1.16 13:30～17:00

於：葺出第2ビルB会議室

2. 出席者：北村友博（委員長）、渡部好啓、川畑真一、村山涼二、斉藤義順、是永逸生、大野博久、（事務局）大谷邦博、桑原則道、恩田英明、井上勝彦

3. 議題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 会員拡大施策について
- (3) 第二次試験受験者の拡大について

4. 議事の概要

4. 1) 前回議事録確認：

《支部長会議12.3》；

全国大会改革案紹介、JABEEコースの教員、学生への技術士PR、合格者歓迎会を工夫（参加し易い、安価、積極的な参加・入会勧誘）退会者防止に支部活動の活性化、若手の起用

《部会長会議12.11》；

会員拡大をテーマ、魅力的なテーマ、部会の活性化、異業種

《受験者拡大施策検討》；

JABEE修了生に対するPR

《退会者防止施策検討》；

部会活動の活性化

《会員拡大施策の検討》

入会時に3点セット；バッジ・メールアドレス・名刺を提供

4. 2) 会員拡大施策：3点セットの効果検討——
会員バッジは既に実施中、会員専用アドレスはプロバイダを変更しても通用、退会防止になる⇒H20年度中にサービスイン

4. 3) 全国大会改革：開催意義と目的を技術士活

性化に資するように見直し。一般技術者にも広げる。国指定の「科学技術週間」の一環行事と位置づける。安価な公共的施設の使用

4. 4) 2007年度拡大・技術士活性化推進特別委員会（KK委員会）進捗ノート

① 会員拡大目標；1000名（07年度）、2000名（08年度）、活性化の外向き活動

② 企業内技術士の囲い込み《企業訪問、キャリアプランへ組み込み》、歓迎会活発化

③ 退会防止；退会理由調査、準会員

④ 2次試験受験者拡大；企業へアピール、JABEE卒業生引込、修了者在学生PR
福工大知能機械科2年生対象にJABEE進学の勧めの講演結果を報告、感想文、講演資料も整合を取った全国版の作成を依頼、具体的に大学訪問を提案

技術士会活性化；支部、部会活動へ若手起用、ワースト3部会とコンタクト

4. 5) その他

①事務手続き改善；会費請求、入会手続き

②法的に「技術士は全員会員に」

③「技術士センター設立」；公益以外の業務——詳細未定

5. 次回予定

2月15日（金）13:30 ～ 作業部会

3月14日（金）13:30 ～ 委員会

6. 所感

今回、長野副支部長の代わりに出席した。会議は前回と同様に熱心に討議されているが、討議結果や提案のOUT PUTが問題。理事会をはじめ、他の委員会や支部・部会等と連携して又は圧力をかけて実践に結びつくまでの活動が必要と感じた。

第 4 回 政 策 委 員 会 報 告



政策委員会委員 山口 一弘
(建設・福岡)

はじめに

去る 2 月 19 日に、葺手第二ビルにて、15 時から 17 時まで、第 4 回政策委員会が開催されましたので、その主な内容を報告します。

I、審議事項

1、委員会運営に関する規則一部変更

平成 19 年 5 月に定められた規則を、その後の実態に合わせて修正するものです。主な修正点は、「科学技術基本計画支援実行委員会」を別表 2 へ追加したのが主な点です。

2、管理番号作成の手引き一部変更

規則に従って機械的に変更するものです。

II、報告事項

1、平成 19 年度第 5 回理事会報告

- ① 平成 20 年度事業計画・収支予算について、3 月 13 日（木）の臨時総会で決定する。
 - ② EMF（Engineers Mobility Forum 技術者流動化会議）エンジニアモニタリング委員会運営規則等の制定について
最近の目覚ましい国際化の波に対応して、EMF エンジニアモニタリング規則が平成 18 年 11 月に制定されましたが、今回運営規則、審査委員会設置・運営規則などが初めて制定されたものです。
APEC（Asia Pacific Economic Cooperation）エンジニア（参加 13 コロニー）の登録制度に準じているようです。出来るだけ多くの方が登録され、国際的に活躍されるようお勧めします。
 - ③ 平成 20 年度技術士試験日程
第二次試験 8 月 2 日（土）～ 3 日（日）
第一次試験 10 月 13 日（月）
 - ④ 「管理技術者名義借り」国交省ホームページにネガティブ情報欄が設けられ、違反者情報等が掲載されるようになりました。
- #### 2、防災支援委員会運営規則の変更

従来内閣総理大臣が定める災害対策本部を対象にしていたものを、都道府県知事または市町村長が設置する災害対策本部まで対象とするよう変更したものです。

3、EMF エンジニアモニタリング委員会運営規則等の制定

平成 18 年 11 月に規則が制定され、それに基づき運営規則、審査委員会設置・運営規則が作られました。

4、「本会の目的・基本事業制定」小委員会報告

本会の目的・基本事業について、理事（12/30）監事（1/3）・支部長（2/7）・部会長（13/19）に、2 月 12 日締め切りで意見を求めたところ、28 件の意見が寄せられました。

5、「公益法人制度改革」関連事項

内閣府の公益認定委員会より、公益目的事業のチェックポイントが出されました。これによると、技術士試験制度そのものが公益事業と見られているようで、公益性に関する点は心配ないようです。今後は「不特定かつ多数の者の利益の増進にどのように寄与するか」をつめる必要があります。防災支援委員会の働きなどは、まさにこの事項に該当すると思われます。

6、政策委員会のホームページの変更

政策委員会のホームページが作られましたのでみてください。

7、青年技術士交流委員会活動状況報告

掛川昌俊副委員長から、公益法人化についての意見の政策委員会への提出、「青年委員会の活動紹介」が月刊 PE の 5 月号に掲載される、平成 20 年 6 月の本支部交流研修会（東京で開催）へ吉田政策委員長より講師依頼などがありました。

おわりに

政策委員会では、技術士会の重要な案件が審議されますので、出来るだけ今後も支部の皆様へ報告してまいりたいと思います。

公益法人制度改革について

九州支部 支部長 光岡 毅
(建設・福岡)



皆さんご案内の通り、いま、公益法人制度改革が始まっています。社団法人 日本技術士会もその公益法人としてこれまで活躍してきましたが、この新しい路線に組み込まれます。このため政策委員会や理事会で技術士会の定款の見直しを行い体制をどのように組み立てていくのか議論されています。

<今までの公益法人>

民間非営利部門の活動を行う機関として公益法人があります。これは社会的に権利義務をもつ人格を持った機関として認める制度として民法で決められていました。同じような人格を持った法人としては、ほかに株式会社、など商法で決められているものや宗教活動を行う法人もあります。

民法で決められていた公益法人は社団法人と財団法人の2つがあります。

<新公益法人法>

平成18年5月26日、公益法人制度改革関連3法(「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定冠する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」)が成立し、同6月2日に公布されました。今回の改革は民法で公益法人制度が規定されてから、実に110年ぶりの大改革です。3法とも、平成20年12月1日から施行されることが決定しています。

今回の改革では、現行の公益法人は公益社団法人、公益財団法人の申請をするか、一般社団法人、一般財団法人の申請をするか、または、その他の業態への移行をするかの選択を求められています。公益法人存続を選択した場合は、施行から5年間の移行期

間中に移行申請をしなければならないことになっています。

<技術士会の対応>

技術士会においては、法律施行できるだけ早期平成20年度内の申請を目標にしている。20年春、国の認定委員会において制度運用指針が策定されることになっていますが、モデル定款に対応したものに検討を行っています。

定款の検討を役員、支部長、部会長の意見を求め、かつ、文部科学省との協議を進めつつ総会で決定して、申請を行うよう進めている。

<公益法人としての条件(一部関係部分のみ)>

公益法人として認められるためには、以下の条件の「公益目的事業」が行う法人でなければなりません。

1. 学術及び科学技術の振興を目的とする事業
16. 地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業
17. 国土の利用、整備又は保全を目的とする事業
19. 地域社会の健全な発展を目的とする事業
21. 国民生活に不可欠な物資、エネルギー等の安定供給の確保を目的とする事業

<最後に>

本年度末から来年度にかけて以上の改革が行われます。皆様方にも技術士会が公益法人化に向かって検討中であることに理解を深め、関心を持っていただくようお願いします。なお、詳細は行政改革推進本部のウェブページをご覧ください。

<http://www.gyokaku.go.jp/about/koueki.html>

平成19年度第4回九州支部CPD(A部門)報告



CPD委員 長野 義次
(農業、総合技術監理・北九州)

平成20年1月26日(土)、福岡商工会議所にて九州支部主催による標記CPDが実施され、74名の参加者が次の4題の講演を熱心に聴講されました。

①「食品ゴミから環境エンジニアリングプラスチックの製造」【A-2】

白井 義人先生(九州工業大学大学院生命体工学研究科教授・農学博士)

②「産学連携における人材育成—シーズ・ニーズ変換活用事例からの発信—」【A-5】

沼尻 健治先生(北九州産業学術推進機構事業推進部長・技術士：機械・総合技術監理)

③「福岡の水素エネルギー戦略について」【A-4】

丸林 啓太氏

(福岡県商工部新産業・技術推進課主任技師)

④「新しい中小企業施策と技術士への期待」【A-6】

松田 一也氏

(九州経済産業局産業部中小企業課長)

講演①では、バイオマスの利用条件と同資源の長所と短所を説明後、食品ゴミからポリ乳酸を生産する技術と事業化について言及されました。

しかし、収集と生産計画の不一致やポリ乳酸が石油のプラスチックより品質的に劣ることによる需要の小ささの欠点から、加水分解や熱分解が容易なケミカルリサイクルへ挑戦し、MgO触媒の熱分解によるラクチド回収と再重合、再生ラクチド技術を確立。また熱分解によるポリ乳酸の容易な分別などを説明して、「環境は一般生活者に受け容れられなければいけない」と熱く社会実験の検証を語られました。

講演②では、総合科学技術会議基本政策専門委員会は大学等での研究開発の成果を我が国の技術革新のシステム強化を謳っている。「適切な研究マネジメントと技術革新の目的設定や研究進捗管理等を行う責任と裁量権限のあるコーディネータを置くことで、マネジメント体制を強化する」とコーディネータの重要性を指摘されました。学の得意分野(研究技術マップ)と産の得意分野(研究開発型企業マップ)を調査し、研究シーズ(S)からと逆に具体的ニ

ズ(N)からの連携(変換)を事例紹介されました。次にコーディネータの基礎的要件と求められる資質・能力を説明され、コーディネート能力の評価案を示されました。(技術士はコーディネータとも言える)

講演③では、なぜ、水素エネルギーが必要かを需給の変化、石油ピークの到来予測による石油依存低下の必要などから説明された。次に燃料電池、水素エネルギーの現状と課題を基本原理(水の電気分解の逆)、多様な用途、家庭用燃料電池、燃料電池自動車などの紹介で明らかにされました。最後に、実証活動に認められる福岡における水素エネルギー戦略プロジェクト成果を紹介され、水素タウン、水素ハイウェイ構想を示されました。(用途でパソコン、携帯電話の携帯用電源は目からうろこの思いでした。)

講演④では、はじめに、GDP、人口減少、高齢化、起業意識などの図表により日本、九州の経済動向を示されました。日本経済は厚みがなく外需と大企業主導の景気回復、九州経済は業種、規模別に大きなばらつきがあるが、三角貿易構造と豊富な若年労働でものづくり拠点として期待される。

中小企業政策としては地域資源、農商工連携、新連携、小規模企業対策、再生支援、新規役などで、公募や提案による認定も多い。色々な連携の事例路紹介し、技術士の領域(連携)が今後求められます。

(厳しい時代だからこそ、チャンスでもある。中小企業の飛躍や地域経済の活性化に技術士の出番が求められているようです。)

【お知らせ】

3月15日(土)に祝賀会&CPD、支部平成20年度第1回CPD(A部門)は、4月26日(土)の予定です。

なお現在、九州支部ではホームページでCPD、その他の行事や情報を紹介しております。支部ホームページから諸情報を取得されるとともに、CPDの参加申込み、支部ホームページから出来ますので、**本部のホームページからではなく、支部のホームページから申込をお願い致します。**

業務開発委員会報告

業務開発委員会委員長 大里 信義
(化学、総合技術監理・北九州)



業務開発委員会は毎月第3月曜日の午後17時半から2時間をめどに開催されており、技術士会支部会員の業務拡大について話し合いが行われている。その内容については技術士会九州支部のホームページ会員専用から委員会議事録の欄に入ってみてもらえばよい。さらに詳しい内容について必要な人は資料を技術士会事務局に保管してあるので参照されたい。今回は委員会報告に代えて技術士パーソナルデータベースについてご紹介申し上げる。

そもそも技術士は特定の分野における高度の知識と経験を持つ専門家である。その知識と経験を持って技術士の名称を用いて、科学技術（人文科学のみに係るものを除く。以下同じ。）に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務（他の法律においてその業務を行うことが制限されている業務を除く）を行う者をいう（技術士法総則）。

しかし小職独立した技術と経営のコンサルタントとして企業の支援を行った10年間の経験から技術士の資格を得た専門知識のみを活用して上記の業務を行ったことは一度もない。複合的な、いろいろな分野の知識や経験が必要であった。そのたびに他の専門家の意見を聞いたり、新しく知識を得るための調査をしたりした。技術士が社会で認められるためには技術士個人が持っている専門知識だけでは不十分であると考えられる。

技術士が大いに力を発揮し社会で認められるためには、ことに当たって技術士どうしが協力して、お互いに持っている専門知識を出し合って協働しながら仕事を進めていくことが効果的であると考え。そのために必要なのは誰がどんな知識を持っているか、どのような分野に興味と見識を持っているかわかって且つ人脈をたどってお互いに協力できる体制

を作ることが大切である。そのための有効な手段が技術士パーソナルデータベースであると考えられる。

（技術士会員登録には名簿登録もあるがこれと間違えないようにしてほしい）

技術士パーソナルデータベースには技術士会（本部）のホームページを開いて“会員コーナー”から“技術士パーソナルデータベースに登録”の欄に入って少し面倒だが自分の得意分野や、やりたいことをインプットすればよい。国内、海外、防災の3分野について登録出来る様になっている。

登録したデータは本部で一括管理する様になっていて、個人情報拡散防止の関係から当面は業務幹旋実行委員（現在九州では大里）のみが登録者の個人情報を検索出来る様になっている。外部から業務の依頼が来たとき、技術士が他の技術士に業務を依頼したいとき、技術士どうしが協働して仕事をしたいときなど業務幹旋実行委員が仲介となって適任の技術士を検索し紹介するという事になる。登録のときに出来るだけ詳しく入力することが肝心である。キーワードによる検索であるからたとえ自分の得意分野であってもキーワードが含まれていなければヒットされないことになる。せっかくの技術士パーソナルデータベースも会員の登録が少なければ用を足さない。従来の様に個人的な人脈のみで紹介するほうがよいということになってしまう。今現在残念ながらまだ登録件数が少ないのが実情である。

登録のやり方などについてはホームページを参照されたら詳しく書いてある。もし分からないところがあれば本部の担当部署の電話番号も載っているので質問できる。

会員諸氏が奮って登録されることを期待している。

部会報告

第二部会活動報告

第二部会現地研修会

第二部会長 佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

平成19年12月14日(金)に第2部会主催で「三瀬トンネル有料道路(2期)工事(ループ橋)」と「嘉瀬川ダム工事」の現地研修会を開催しましたので報告します。JR博多駅に9時集合してバスで現地研修会を行いました。参加者は32人でした。

2. 三瀬トンネル有料道路(2期)事業

国道263号は佐賀市と福岡市を最短ルートで結ぶ主要幹線道路ですが、福岡県と佐賀県境にある三瀬トンネルより福岡市側の旧規格道路で急勾配、急カーブのため交通の難所となっている延長1.87km、高低差100m区間に大型ループ橋を入れて有料道路事業で整備しようとするものです。

事業期間は平成16年度から平成20年度までです。走行時間が5分短縮されます。

見学に行った時はメタルのカーブ橋の床版と舗装の工事中でありました。下の方はPC橋でした。

谷間の土地に大ループ橋が映えて雄大で素晴らしい景観美を作っていました。

この工事の特徴は、下部工では急斜面の切り土量と自然に与える影響を減らすために竹割型掘削工法を採用していました。また、高橋脚建設に、スパイラル筋に囲まれた鉄骨(H形鋼)と鉄筋を配置した複合断面により、優れた耐震性能を実現していました。

佐賀県道路公社が事業を担当しており、井出章太郎係長さん他により丁寧な説明と現地案内をして頂きました。



三瀬トンネル

3. 嘉瀬川ダム工事

嘉瀬川ダムは多目的ダムで、下流域の洪水被害の軽減、流量の確保、佐賀・白石平野における地盤沈下対策などの農業用水の確保、佐賀市周辺地域における都市用水確保並びに発電を目的として建設されています。

嘉瀬川ダムは、佐賀市富士見町で嘉瀬川の上流にあり、ダム高約97m、堤頂長約460m、総貯水容量7100万m³の重力式コンクリートダムです。

昭和48年度に事業着手し平成23年度完成をめざしています。

平成19年10月2日よりダム本体工事に着手し、見学時は、ダム高約100mのうち10m位立ち上がったところでした。工法はRCD工法で、スランプはゼロのコンクリートで打設しています。バケット容量4.5m³のケーブルクレーンで1日24時間休みなく自動運転をして運搬し、ブルドーザーで敷き均し、振動ローラーで敷き固めていました。スムーズな動きで効率よく作業が進んでいました。監査廊は最近ではプレキャストで造られていたのには効率的であり感心しました。

ダムの上流部に原石山があり、その花崗岩を骨材として碎石加工してベルトコンベアーで運搬をしていました。ダムに近いので大変効率的に感じました。

さらに、国道・県道・市道の付け替え工事も急ピッチで行われていました。

現地案内と丁寧な説明を嘉瀬川ダム工事事務所の辰本卓副所長さん他にして頂きました。



嘉瀬川ダム工事

第三部会活動報告

熊本大学「次世代高性能耐熱性 マグネシウム合金研究センター」

宮田 守次
(金属・北九州)



第三部会では、平成19年度行事として見学会を企画し、強度高剛性耐熱性マグネシウム合金開発(ブランド名KUMADAIマグネシウム合金)では世界最先端の研究成果で著名な、熊本大学大学院自然科学研究科河村研究室を訪問・見学したので報告します。

1. 主な目的

今回の見学会は、環境・省エネ問題で重要な自動車の軽量化高性能化などが期待される、最近の新しい高性能マグネシウム合金の創成研究分野の状況とトレンドを把握するために実施しました。

2. 見学実施

日時：平成19年11月12日(月) 13:00~16:00

場所：熊本大学大学院自然科学研究科河村研究室

の最新鋭装置が整備されている「地域連携—CREATEの実施—のコア研究室及びサブコア研究室」

応対者：工学博士 教授 河村能人 氏

参加者：3名（いずれも金属部門）

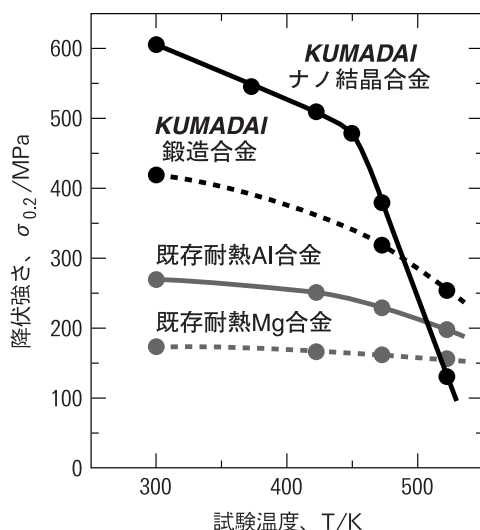
和田洋二(部会長)、宮田守次、坂田一則

3. 資料：「KUMADAIマグネシウム合金の開発と産学官連携」

4. 見学実施内容

最初にインキュベーションセンターで河村先生よりマグネシウムに希土類元素（イットリウムYなど）を若干入れた、長周期構造の原子配列を持つ、KUMADAIマグネシウム合金の発明と開発過程及び其の優れた特性について説明がありました、

下図に其の一例を示します。



KUMADAI マグネシウム合金の特長例

更にこれを応用するための各種プロジェクト活動の説明がありました。

現在、この合金を応用した次世代マグネシウム合金の研究開発拠点形成のため、以下の4つの推進プロジェクトが進行中であるとのこと。

- ① 学内連携の各専門研究室による拠点形成研究プロジェクト
- ② 国内連携プロジェクト（高性能Mg合金創成加工研究会、民間企業との共同研究、次世代航空機用構造部材創製・加工技術開発プロジェクト、地域新生コンソーシアム研究開発事業）
- ③ 国際連携プロジェクト（環黄海国際ネットワークの形成）
- ④ 地域連携（JST熊本県地域結集型研究開発プロジェクト“CREATE”）

これは平成18年度に認められた2件の採択件数の一つで総額24億円（H18～H23 60ヶ月）の大型予算です。

熊本大学では他大学に類を見ない、横断的に

“KUMADAIマグネシウム合金”を各研究室が連携して研究する総合的推進体制が構築しています。

- コンセプト、○合金開発・プロセス開発、○破壊・変形、○破壊メカニズム・成形加工、○鍛造加工・トライボロジー、○衝撃加工、○表面処理、○表面研磨、○接合技術・評価、○ ○精錬・リサイクルの研究担当が決められて、現在積極的に研究成果を国内外に論文発表をし、大きな評価を受けています。

CREATEの実施場所「コア研究室」の見学コア研究室とサブコア研究室があり、プロジェクトの参画企業などが、コア研究室内の各種実験施設を使用して、応用開発実験ができる仕組みになっています。見学した設備は

- ① 真空中で熔融マグネシウム金属を高圧噴射し、そのMg金属粉末と他の金属をAr雰囲気中で合金化し、 casting、成形できる、日本に2つしかない「急速凝固マグネシウム合金薄片製造装置（グローブボックス操作型）」、完成したコア研究用の建屋には、②100トンダイカスト機、③100トンサーボプレス、④原子配列も観察できる高圧走査型電子顕微鏡、⑤EPMAなどの電子X線分析装置などがありました。

また学長の采配で、出来る資金で、国の支援とは別に更なる電子顕微鏡などの解析研究機器の購入などが行われて使用されていました。

現在600トンの実験用熱間押出しプレスの入荷待ちなど文部科学省やその他の支援機関からの総額24億円を投じる大型プロジェクトが着々と進行していました。

今回の見学会は参加者こそ少なかったが、今話題になっているマグネシウム合金の最先端の研究とそれをサポートする熊本大学の総力的推進体制、各種のプロジェクトや国内外における、熊本大学のマグネシウム合金開発と其の応用推進状況を学ぶことができ第三部会の大きな収穫となりました。

最後に早く見学に応じてくれた河村教授にお礼を述べ、南キャンパスからバス道路を隔てた北キャンパスの夏目漱石さん（像）と4人で記念のスナップを撮り、キャンパス内の“くすの木会館”でコーヒを飲みながら見学会の反省会をして解散しました。



夏目漱石さん（像）と4人でポーズ

第四部会活動報告

技術講演会の報告

第四部会長 小宮 信行
(上・下水道・福岡)



技術講演会は、昨年11月30日に、福岡市舞鶴公民館で、お2人の方に講演していただきました。

最初の福岡県直方土木事務所都市施設整備課副長田尻英樹さんは、「甘粛省白銀市の都市雨水対策状況」、続いて九州共立大学 工学部 環境土木工学科及び大学院工学研究科の森山克美教授は、「水環境保全と下水高度処理」の演題でした。

お二人は「パワーポイント」を駆使して詳しい説明をしていただきました。

1) 田尻英樹副長の講演内容

田尻副長は、中華人民共和国甘粛省白銀市に、昨年の9月22日(土)～9月29日(土)までの8日間派遣されました。その内容を報告してもらいました。派遣の目的ですが、白銀市は水資源が乏しい都市であり、洪水が都市にもたらす脅威を最小限に抑え、



水資源の合理的な利用を図りたい意向で、日本における雨水の利用に係る先進的経験、事例を紹介し、

雨水利用の改善点について実施可能な施策の提案をする事でした。

白銀市における都市部の水環境は、①降雨量は年間150mm～300mm、②都市用水はほぼ100%黄河から導水しているがこれ以上増やせない、③地下水は硬度が高くほとんど利用されていない、④市街地は合流式下水道で整備されている、⑤集めた下水は黄河まで下水管で導水し放流しているが、未処理のまま放流している、⑥上水道は黄河から導水し貯水池に送り、浄水場において緩速濾過+塩素消毒し市街地へ配水している(飲量不適)

講演内容は、年間降雨量150～300mmの治水対策よりも、雨水の水源利用が主な指導ですが、指導され

る中で大変苦労され「体調ダウン」の事、協議の時と宴会の時の違い等おもしろかったのですが、紙面の関係で田尻さんが海外指導でここは大事と言われたことを列記します。

APECエンジニア資格は非常に説得力がある浅くても良いからその分野の総合的な知識が必要事前に的確な情報は期待できないので情報は想定できる限り幅広く集めて持参する意志疎通をはかるにはパワーポイント、図や写真が理解される。

中国では通訳次第だが、語学はできたほうが良い。

また、逆浸透膜処理技術について興味を示した。

その他に、中央政府の権限は強大である。省レベルの技術職員は対等の技術的な議論ができる北京、上海だけでなく内陸部も発展している自転車ではなく自動車、ネットワーク化された高速道路。地方都市でも日本と変わらない生活。

中国のイメージが変わったとの事です。

最後に中国のワインは美味しかったそうです。

2) 森山克美教授の講演内容

森山先生は、前半は河川・湖沼・閉鎖的な湾内の汚染環境等について講演され、後半は今後の下水処理方式を変える内容のビックな講演がありました。



私の浅学では説明が難しいのですが、現在下水処理では、「窒素・リン」除去のために、

「嫌気」「好気」処理を交互に行っていますが、同じ処理槽内で同時に嫌気・好気処理をして成功している事例を紹介されました。これでうまく処理できるなら、施設は半分に、処理時間も半分以下になります。建設費・処理コストを含め大幅削減ができます。

森山先生は、後日福岡市下水道局の職員にも、同じ内容の講演をされています。

このような施設の建設も早いかもしれません。

素晴らしい講演をしていただいた、お二人の講師に紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

講演後、講師を囲み近くで反省会を行いました、こちらの方も大変盛り上がりしました。

第五部会活動報告

現地研修会

第五部会長 吉木 久人
(農業・福岡)



第五部会では、「筑後川下流域における農業・農村整備」をテーマとして、平成19年12月6日、地域の中央に位置する大木町において、現地研修会を行った。

「食の安全・安心」や「環境」についての関心が高まっている中で、農村部においても、より良き物を生産するための生産基盤整備や生活環境整備が着々と進められる。農業生産の基礎である水を管理する広域的用排水管理システム、その基幹水路であるクリーク水路の環境等を配慮した整備、バイオガスシステムによる有機循環を主とした農村環境整備、「きのこ」を主とした生産施設整備等、地域ぐるみの取り組みを見学した。参加人員は26名であった。

(1) 筑後川下流域における水管理システム

講師 農林水産省九州農政局筑後川農業水利事務所
企画設計課長 瀧川卓也

筑後川下流域の幹線クリーク水路は、用水路と排水路の他に貯水池としての機能を有しており、その管理は非常に複雑である。一つの水路でも広域に及ぶため、上下流で管理団体が異なることも多く更に複雑になっている。この水管理システムの運用は緒についたばかりであるが、客観的な情報を送ることにより上下流の調整等に役立っており、用水不足や洪水被害の防止に大きな働きをするものと期待されている。

(2) クリーク整備のためのコスト縮減工法

講師 福岡県筑後川水系農地開発事務所 工事2課
課長 古後昌直 第2係長 坂本良一

軟弱粘土層のクリーク水路の法面は想像以上に弱く、侵食は水路のみならずその周辺にまで及んでいる。

そのクリーク水路を県営クリーク防災機能保全対策事業で整備するもので、施工にあたっては、浚渫土に固化材を添加し強化する等の新工法でコストの縮減を図っている。新工法では改良体と言う小段を造ることにより、水底から茎を伸ばすヒシ等の水生植物や浅瀬に生息する生物の生息域を生み出す等の工夫もなされている。

(3) おおき循環センター・バイオガスシステム

講師 大木町環境課・おおき循環センター
環境循環係長 境 公雄

大木町は「循環のまちづくり」の拠点施設としておおき循環センター「くるるん」を建設した。生ごみやし尿・浄化槽汚泥をバイオガスプラントで発酵させ、バイオガスと有機液肥を回収し、バイオガスは施設内の給湯や発電に利用、有機液肥は農地へ還元し良質の農産物の生産につなげている。

大木町の「循環のまちづくり」には4つの柱がある。1. 現在ごみになっているものを、地域資源として活かすこと。2. 住民・事業所・行政が役割分担して、それぞれが責任を果たすこと。3. 食やエネルギーを出来るだけ地域で自給すること。4. 「自然を大切にし、助け合い、汗を流し、何ひとつ無駄にしない」先人の暮らしの知恵に学ぶこと。

この4つの柱を基本として、住民との協働作業により「循環のまちづくり」がなされている。

(4) きのこ栽培施設・「きのこのまちづくり」

講師 農事組合法人きのこの里
理事長 水落重喜

大木町のエノキ茸等きのこ類の生産は九州一である。この「きのこの町づくり」の先駆的役割をした農業法人の施設において、安全・安心のための厳しい生産管理の状況等を見学した。

(5) まとめ

今回の現地研修会は広域的水管理から「きのこ」の生産管理まで多岐にわたるものであったが、その底流として、「環境」を取り上げた。大木町の事例が示すように環境問題において、如何に地域住民の協力が必要であるかを痛感した。

気軽に原稿をお送りください

「技術士だより」から、技術士の皆さんの気持ちが溢れて、活き活きとした息吹きがほとばしるようにしたいと思います。それで「声の広場」の原稿をお送り下さい。例えば、

- ① 何故技術士になったのか。
- ② 技術士になってわかったこと。
- ③ 技術士としてこんな仕事をしたい。
- ④ 今仕事の上で悩んでいること。

このほかいろいろあると思います。お気軽に書いて見てください。原稿は1600字程度。お送り先は支部事務局。メールでどうぞ。

地域だより

福岡

12月公開講演会の報告

第7部会長 山田 伸雄
(建設)



第7部会では平成19年度の活動テーマを「九州の産業・技術遺産」として定例会や見学会を行いました。

その総まとめとして平成19年12月8日に九州大学大橋サテライトにおいて国土交通省 松木洋忠氏、九州大学 西山徳明教授をお招きして、公開講演会を実施しました。

松木洋忠氏には「遠賀川流域の近代化遺産(土木)」と題して、遠賀川流域の近代土木遺産についての紹介や近代化遺産の活用、転用、材料リサイクル、技術応用についてお話ししていただきました。

西山徳明教授には「文化遺産としてみる近代化技術の資産」と題して、イギリスやフランスのエコツーリズム、エコミュージアムの事例を交えて、近代化

遺産の活用についての方向性を示していただきました。

質疑では、「産業技術遺産の保全・活用にあたって技術士に望まれることは何か」という質問が出されました。お二人に共通したお答えは「地域の歴史・文化等の特徴を活かしたまちづくりへの貢献」でした。その中で松木氏は近代化遺産の活用・転用等の技術開発、西山教授は大量生産ではない手作り感のあるモノづくりをあげられていました。

そうした「個性と手作り感のあるモノづくり」という考え方は、大量生産、大量消費の中で仕事をしている私たち若手技術者に、技術の原点を思い出させてくれるものでした。日本経済が大きな転換期を迎えている今、これからの技術者に対する社会的ニーズの一つがそこにあるような気がしました。

産業・技術遺産への単純な興味から始まったH19年度活動でしたが、先達が残した数々の遺産は技術のあり方まで私たちに考える機会を与えてくれました。

H20年度は、今後の技術者の向かうべき方向性まで視野に入れながら、もう1年間産業・技術遺産について掘り下げていきたいと考えています。

北九州

北九州地区総会兼忘年会の報告

幹事 寺師 政廣
(上下水道)



北九州地区技術士会では、年末の技術研修会の折に総会及び忘年会を開催しています。総会は、通常、地元で開催しておりますが、各地区技術士会との懇親を目的に、平成15年度は熊本、16年度は佐賀で開催しました。

12月15日に開催された総会は、北九州30名、福岡5名、大分1名の合計36名の参加で、昨年度と同様、盛会で有意義なものとなりました。

午後1時から北九州市八幡東区の「大谷会館」で研修会を開催しました。九州支部長・光岡毅氏(建設部門)による講演「技術士の歴史と技術士の今後のあり方」では、技術士法や九州支部の歴史、そして「技術士よ外に出よう!」を合言葉に今後の技術士のあり方について講演していただきました。

次に、国土交通省九州地方整備局河川調査官・松

木洋忠氏(建設部門)による「江戸と平成の川づくりくらべ」では、遠賀川を題材として、遠賀川が存在している歴史的経緯を明らかにし、地域住民が主体的に参加できる川づくりの試みを紹介していただきました。

総会では、長崎前代表幹事より活動方針、月例技術研修会、本部・支部行事への積極的な参加、業務開発等、平成19年の総まとめの報告、そして、是永理事より本部情報・九州支部情報・本部行事・全国大会等の報告及び「北九州市のPCB処理事業の進捗状況と、PCB監視委員会の活動状況」についての報告がありました。最後に、月例技術研修会の皆勤賞1名、精勤賞9名、特別精勤賞2名(大分地区・福岡地区の遠路からの参加者で出席率の良い方)の表彰式を行いました。

忘年懇親会では、久々に参加していただいた先生の反省を込めた近況報告等で時間が過ぎてしまい、カラオケなしでも宴会は大いに盛り上がりました。また、二次会は中央町、黒崎方面に分かれましたが、三次会まで行かれた方もあったとか・・・。大分地区・福岡地区から来られた皆様、本当にお疲れ様でした。

佐 賀

平成19年度 技術懇話会の報告

NPO法人技術交流フォーラム
広報委員 福島 裕充
(建設)



佐賀では、毎年年末に長崎県技術士会と合同で「技術懇話会」と称した勉強会及び懇親会を開催しております。対象は技術士のみならず一般の方にも門戸を開き、できる限り多くの人に科学技術を中心とした話題に興味を持ってもらうことを目的としています。

今年度は、平成19年11月24日に前年度同様武雄市の「佐賀県立宇宙科学館」で参加者30名のもと下記講演会を開催しました。

- ・講演①「佐賀平野における大規模浸水時の危機管理とNPOへの期待」国交省武雄河川事務所
長：中平善伸氏（技術士・建設）
- ・講演②「斜面災害について・近年長崎県内で発生

した斜面災害の実例と対策工の紹介」(株)ア
サヒコンサル：木原真氏（技術士・建設）

今回の講演の共通テーマは、一言で言えば「安全・安心社会に向けた危機管理のあり方」ではないかと思いました。講演①では低平地である佐賀に住む住民にとって、今後いつ大規模な浸水被害が発生するかもしれない不安。それに対する危機管理体制としてa. 情報収集や伝達、b. 広域応援と緊急輸送ネットワークの完備、c. 住民間の連携強化等、が重要であることを具体的な事例をあげて説明していただきました。講演②では危機管理の場所を山地部に移し斜面災害が起きた場合に対する対応策について長崎県での実例を出して懇切丁寧な説明をいただきました。佐賀県も中央部を脆弱な山地斜面が東西に横断して存在する地域特性であるため大変参考になったものと思います。

最後に余談ですが、懇話会後の懇親会で木原氏によります筆筆（ヒチリキ）の生演奏が披露されました。初めて聴く人も多く、高尚な音色は感動的でした。（雅楽は素晴らしいと感じたのは私だけではないはずです）

長 崎

長崎地区の地方に おけるCPD研修

幹事 山口 和登
(応用理学)



地方におけるCPD研修については、その機会、手段において非常に悩まされる。特に交通手段に苦勞する長崎の更に地方に在住する技術士は尚更である。長崎県は壱岐、対馬、五島などの離島も抱えるが、現在は離島在住の技術士は居ない。しかし、本土だけでも北は平戸、松浦から南は島原半島南端まで技術士が在住する。北の松浦から島原半島南端の口之津までは車で約4時間の移動時間がかかり、他の交通手段では更に時間がかかる。この為、長崎県技術士会としては長崎県内の地方在住の技術士に少しでも機会の利便性を考え、長崎県内の地方におけるCPD研修を開催している。平成17年には西海市大島町、

平成18年には佐世保市、平成19年には島原市でCPD研修会を開催した。通常は県内在住の技術士の普遍的利便性を考え、長崎市や長崎の県央地区の諫早、大村での開催が多い。九州支部では福岡でのCPD研修が多い傾向が、規模は違うものの長崎という地方においても同じような問題が生じている。

しかも、長崎県内の地方開催のCPD研修においては、その利便性の偏りからか研修参加人員の少数化という問題、費用の負担増と言う問題からは逃れられないでいる。時折、佐賀地区の研修会に参加しているが、交通の利便性の悩みが少ないのは羨ましいかぎりである。

しかし、長崎県のおかれた状況は交通手段の飛躍的改善がなされない限り、この問題は解決されない為、今盛んに議論されている道路特定財源の問題は非常に関心のある事柄でもある。いずれにしても、会員の一層の資質向上を目指して、更には会員相互のコミュニケーションを深める為、今できる最善の策を取りながらCPD研修を進めたいと思います。

I

農業の片隅

広報委員 吉田 紘彬
(応用理学部門・熊本)



私は昭和21年奉天から、満州鉄道の貨物列車で大連に行き、米軍のフリゲート艦で博多港へ引き上げてきた者です。博多港には沈められた船のマストが複数見られ、石積みの防波堤に蟹が群れているのが印象的でした。カステラを両手にもらいそのままDDTをかけられたため、その後もカステラを見るとDDT臭さを感じてしまいます。

父親が11人兄弟の次男であったことから、本家に間借りし、台湾からの従兄弟も合わせると20人をこえる大家族がそこでしばらく雑炊をすすることになりました。孔だらけの“かんらん畑”でモンシロチョウを追い、棕の実や桑の実がおやつでした。裏川の水はきれいで海老や貝がよく捕れ、田圃でとれたタニシの佃煮はおいしいおかずでした。

私が小学校に入る頃、親たちは小さな家建て、4.5反の水田、150坪の畑をもって自立し、父はしばらく酢や煮干しを売って現金を稼ぎました。その後父は銀行へ務めることになり、私は、鶏や山羊の世話、本家の馬の世話など農業の手伝いが一段と忙しくなりました。水田は米と麦の2毛作ですが、外で1反当たり米7俵程度の収穫に対し、私の所は1反当たり10俵の収穫があると聞いていました。

昭和39年に熊本を離れ、昭和52年にUターンし昭和54年に田舎の家を立て直しながら、市内で仕事を続け、平成17年に固定資産全てを引き継ぐことになり、田畑は本家従兄弟に維持管理を任せてわかったことですが、圃場整備費負担金の多さに驚きました。私が福岡にいる頃圃場整備が行われることを聞いていました。勝手ながら1反が300坪以上であったウチの1等水田に圃場整備の必要なく、一時反対はしても結局周囲に押し切られたようで、その後、水田はきちんと4反が帰りましたが負担金の年5.3万円は平成26年まで支払うことになっています。今1反当た

り6俵程度しか取れない米では重い負担となっています。

現在米の値段を1俵2万円として、3町の水田に米だけを作った場合、総売上高は360万円、肥料代・機械損料などを差し引くととても厳しい生活を強いられることになります。副業として花や野菜を作り、夫婦のどちらかは勤めに出ないと人並みの生活にはなりません。公務員がやれる唯一の副業は農業と聞いていますが、なんか米の増収だけを考えた暗い農村が浮かびます。

球磨川に沿う山村で仕事をしたとき、狭い棚田で仕事をしている老人に聞いた話ですが、効率は悪いが、とにかく米がうまいんだ。外に働きに出ている子供達に送ると喜ばれるから、働ける間働くとのこと。そうなんだ、衣と住は既に整っており、売るために作るのではなく食うために、また健康のために作ればいいんだ。

田舎の家には週に1日、菜園のために帰っている。平成18年・平成19年にはトマトの苗を5～6本植えたら、露地栽培にかかわらず食べきれないほどよく実り、農家がびっくりしていた。農家は殆どハウス栽培で受粉のために蜂を借りているらしい。ほったらかしでこんなに実るとは、既に若い実を落とす病菌は無くなっているようだとか聞く。インゲン豆も、ほうれん草も大根も無農薬でおいしいものが出来る。

川には海老や魚が増えているらしい。一時期農薬で滅びその後増えてきた魚も水が汚く、食わない方がよいと言われてきたが、最近は食えるらしい。水田に多量の雑魚が繁殖し、イデ落としの時川へ下る機会にそれを捕って炭火焼きし、天日に干すとおいしい保存食材になる。昔は市内から川魚を釣りに来る人も多かった。棕や桑の実がみのり、自由に取れる熟柿などもあり、河川堤防には桜や榎・紅葉があると、遊び心一杯の農村になるのだが。確かに1億2千万人、いやそれ以上を食わせる工場のような農業も必要であるが、定年退職後に、或いはサラリーマンの趣味として、楽しめる農業も絶対必要と考えます。

Ⅱ

低炭素社会構築に向けた 地方での取り組み

山路 和雄

(応用理学、建設、総合技術監理・鹿児島)



低炭素社会（LCS）という言葉は、日本では2007年度の「環境・循環型社会白書」において提唱された。今年冒頭の第169回通常国会の首相施政方針演説にも取り上げられた。今年は京都議定書の第一約束期間（2008～2012年）のスタート年であり、北海道洞爺湖サミット（環境サミット）も開催されることから、非常に話題性がある言葉である。

低炭素社会とは、地球温暖化の主因とされる温室効果ガスの1つ、二酸化炭素の最終的な排出量が少ない産業・生活システムを構築した社会をいう。低炭素社会を実現するシステムとしては、①カーボン・ニュートラルへの転換、②再生可能エネルギーの利用、③省エネルギーによるエネルギー使用量の削減、④カーボン・オフセット、⑤植林や緑化による炭素固定の促進等が考えられている。

地球温暖化については、地球の歴史をみると、温室効果ガスの増減が地球の気温の変化を引き起こすといった単純な話では無いようだ。私が学生の頃は、氷河期が来ると言って騒いでいた。それから30年後の今は、まったく逆の温暖化が進むといった感じである。

地球の気温変化は、太陽の黒点活動、地軸の傾きや公転軌道の変化により太陽放射の受け方が周期的に変化することに起因していると言われている。

元々、地球の誕生時は他の惑星と同じ様に、地球はCO₂の濃度が非常に高かったようだ。地球に海ができ、生物（有機物）が出現し（特に植物による光合成）、大気中のCO₂を大量に固定し、今の大気構成になったと言われている。地中に埋もれた有機物（炭素を固定している）は、いわゆる化石燃料と呼ばれるものだ。産業革命以降、人類は地中に閉じこめられた化石燃料を大量に消費し、CO₂を大気中に放出してきた。大気中のCO₂の濃度上昇はこれまでみられない急激な上昇がみられている。

地球温暖化対策に関しては、昨年2月、科学者から「今こそ行動すべき」と国民への緊急メッセージが発せられた。いずれにしても、技術者としても本気で何かしなければならぬ時がきている。

しかし、地方にいる我々に具体的に何ができるのだろうか？現在、中小企業等CO₂排出削減クレジット制度が検討されており、これが導入されれば、地方でのCO₂対策が産業として成立するビジネスチャンスが広がるのではと期待している。

地方でもできること、いや、地方でしかできないことが必ずあるはずである。地方在住の技術者は、のほほんとしている場合ではない。無い知恵を搾ってでも、解決策を見いだす努力をすることが必要である。その様な仲間が増えれば、知恵の連鎖反応が始まり大きな力となり、意外と解決策が浮かんでくるかも知れない。しかし、いざ実行に移すとなると、克服すべき課題も非常に多い。この課題を克服又は緩和できる一つの手段が、小さな地域単位（セル）でのビジネスモデルの構築ではなかろうか。この小さなセル内で循環できるシステムを構築できれば、類似する地域に伝搬し、地域全体へも拡散していくのではないかと考えている。

現在の社会資本の中に組み込まれた色々なシステムをちょっと冷静に俯瞰し、本当に効率的なものか？地域に合った改良や工夫がされているのか？全国統一基準や標準をそのまま地方に適用していないか？と考えてみるべきである。そうすると、ちょっとした改良や工夫を施すだけで、エネルギー効率が改善できる場合があるかも知れない。その際、エネルギーをバイオマス燃料に変換することで、カーボン・オフセットも更に進み、付随して新たな産業を興すこともできるかも知れない。

例えば、バイオマス燃料活用によるカーボン・ニュートラル、ゼロ・エミッションを目指した資源循環型サイクルを考えた時、ざっとみても、10部門以上の技術士登録部門の技術が必要であり、既存の1領域の技術だけでは解決できない問題であることは容易に想像できる。日本技術士会は21部門の専門技術領域を抱える異業種集団である。技術や業種の垣根を越えた技術者間の協働関係を構築できれば、真に実のある対策を講じることは不可能なことではないと信じている。

合意形成の キャッチボール

菅 忍
(建設・宮崎)



私の選択科目は「都市及び地方計画」であり、専門とする事項は「都市構成」である。

余談ではあるが、私が技術士取得のために受けた通信講座の指導者からは否定されたことをこの稿で記したいと思う。

私は清武町役場の職員として、様々な計画を策定してきたが、いつも一番に考えてきたことは、住民のためになる計画づくりである。

これは技術士の責務である「公益の確保」に繋がると思う。そのためには重要なのは、住民の方の意見を真摯に受け止めることと感じている。

私が初めて策定した「清武町都市計画マスタープラン」においては、アンケートの設計を慎重に考えた。と言うのも、それまでの清武町におけるアンケート調査は、調査客体に選択肢を選択させ、ある種恣意的に作成されていた。また、アンケート調査の結果報告ということを行っていなかった。

よって、それらのアンケート調査は、回答者である住民の一部が「アンケートに参加した」というものであり、自分たちの計画であるとの認識は薄かった。

私はアンケート調査を実施する前に、広報誌に「まちづくりのための都市計画」というシリーズを約10回掲載した。シリーズでは、都市計画の仕組みを分かりやすく解説するとともに、住民の方の疑問にも答える意見の“キャッチボール方式”を取り入れ、誌面を通じた意見のキャッチボールを行った。

その上でアンケートの設計を行い、多くの自由意見を記入してもらうものとして調査を行った。その結果、アンケートの回収率は95%という高い回収率が得られた。

また、アンケート結果の自由意見を様々なジャン

ルに分け、報告書を作成し、住民の方への報告を兼ねて地元での説明会を36地区開催した。

目指したものは、記述したように「住民のための計画」であり、そのことを踏まえた「住民参加」であった。

また、先輩諸氏から教えられた“アーンスタイン”の「住民参加の階梯」が頭に刻み込まれた。

このときの清武町の住民参加は、アーンスタインの言うところの『印としての住民参加』であったと思う。

その後、「まちづくり交通計画」、「住宅マスタープラン」を策定したが、その際にはワークショップを十分に活用した。

その結果、ワークショップに参加していた住民自らが、NPO法人きよたけ郷ハートムを設立した。
(<http://ha-tom.org/>)

また、笑談ではあるが、都市計画マスタープランで作成したアンケート報告書は、その年の町議会選挙の候補者がこぞって、町の課題解決の公約としたことを記憶している。

しかし、このアンケート調査の実施や結果報告には、落合兼俊元町長の懐の大きさがなくては、できなかったと思っている。

まだまだ若造である私の提言を寛容に見守り、かつ住民自治に向けた胎動を感じていただいたことで、私にその後の「第4次清武町総合長期計画」の策定を託していただいたと感謝している。

近年の計画づくりにおいては、住民参加のためのワークショップなどの技法が多く見られるし、ワークショップに参加する関係者も多くなっているが、「声なき大衆」の存在を忘れてはならないと思う。

技術提言と言うことではあるが、計画づくりには従来から行われているアンケート調査でも、やり方によっては、ワークショップ以上の効果をもたらすこともあると常日頃感じている。そのためにも、「合意形成のためのキャッチボール」を、十分な時間をかけて練習し、実践することが大変意義深いものであると思っている。

身近な話

情熱、感動、 感謝の心を忘れず

九州支部 副支部長 大橋 義美
(建設、総合技術監理・長崎)



皆様に、ご披露できるような日常生活は送っていませんが、本稿の執筆依頼を頂いたことに感謝し筆運びたいと思います。

昨年、古稀を迎えました。古稀の由来は中国の詩人杜甫の詩の一節「人生70古来稀也」からとのことですが、「今の70歳はまだ若い」と自分に言い聞かせています。現在、お陰様で健康に恵まれ会社勤めをしており元気の源はと考えると、毎日が定まった生活パターンであること、業務等での適度な緊張感の中にいること、会社での社員との会話や色々なお客様との話し合い等を通じて皆様に感謝しながら生活していること、なども一因かと思っています。

日頃は特別な運動もせず、ただ定期的な人間ドックの受診と暴飲暴食を慎んでいるだけです。これからは散歩でも続けて行きたいと思っています。

趣味の方は記す程のものではありませんが、美術館等へ行ったり読書といったところです。昨年は東京国立博物館や国立新美術館等へ行き、地元では長崎県美術館等へ行っています。しかし、鑑賞力は全くなく本物の絵画等をただ眺めているだけですが、感動を受けていることが良いことと思っています。

読書は、新書、ノンフィクション、歴史小説等を好んで読んでいます。

ところで、80歳と70歳過ぎの技術士の方が大学院博士課程に学ばれ「博士学位」を取得され、又、目指されています。この変わらぬ勉学への姿勢と情熱に敬服しています。本当に元気が貰えます。

私は、会社にあっては技術の伝承や技術上の相談相手として、社外にあっては「労働安全コンサルタント」として労働災害の撲滅にお役に立てばと思ひ厚生労働省委託事業等の活動をしているところです。

これからは、仕事や趣味等のバランスを取って、身体や頭を使い、趣味を持ち、森羅万象色々なことに興味を持ち、日々を情熱、感動、感謝の心を忘れず健康で明るく過ごして行きたいと思っています。

修習技術者の声

経済性の追求と 公益確保

藤崎 修一
(建設・鹿児島)



最近、新聞やテレビのニュースでは、食品業界の偽装問題を大きく取り上げている。消費期限や生産地等の偽装程度では収まらず、ついには冷凍食品の中に殺虫剤が混入し、罪のない子供が重体に追い込まれる事件が起こるなど食に対する信頼性は失墜してしまった。なぜ、このような食品不信を招く問題が発生しているのだろうか。

今回の問題は、検査項目やチェック体制の不備等が一因として考えられるが、最も重要な問題は、企業と携わる人間の「倫理観の欠如と崩壊」にあると思う。企業は、経済性を追求すると同時に、公益を確保するのが本来あるべき姿である。しかしながら、今回の問題があった各企業は、経済性を追求しすぎるあまり、公益を軽視し、自社が与えた社会への損害等について隠蔽する体質を持っていた。このよう

な体質は、食品業界のみならず、他の業界でも同じような事例が散見されている。

私は、建設コンサルタントに従事しているが、公共事業の縮小に伴い、業務毎の原価管理が徹底され、更なるコスト削減を目指すようになった。しかしながら、コストと品質はトレードオフの関係にある。コストを最優先すれば、品質低下どころか前述のような問題を招きかねない。このような状況に陥らないよう、業務毎にコストと品質との均衡を見極め、どちらかをどの程度優先すべきか適切に判断しなければならない。

今後の課題として、私は、経済性の追求と公益確保との両立を掲げていきたい。これを達成するには、技術士に求められる高い技術力と技術者倫理が必須であると思う。私は、まだまだ技術的に未熟で、かつ十分な技術者倫理を兼ね備えていない。これらを培うため、実務経験で得られる技術のみならず、積極的にCPDにも参加し、資質向上とともに高い技術者倫理観の涵養に努めたいと思う。そしていつかは、技術士第二次試験に合格し、経済性の追求と公益確保が両立できる技術士として社会に貢献していきたい。

新春講演会の概要報告



九州支部 副支部長 甲斐 忠義
(建設・福岡)

昨年当初から技術士法制定50周年を記念したシンポジウムが開催され多忙な行事運営となり通常のCPD以外に行事に取り組みなかった事から特別に「新春講演会」を開催したものです。会員の外、建設コンサルタント協会会員、福岡県測量設計協会会員など約140名の参加を見て盛会に開催されました。

開催テーマについては、現在北部九州において進められています自動車生産年間150万台拠点づくりを取り上げました。福岡県の工業は、鉄鋼、石炭から出発し基礎素材型、生活関連型産業を中心に発展してきましたが、最近はハイテク機器、自動車産業等加工組立型産業が立地しています。福岡県では、今後の産業構造を国際的視野に立って展開すべく多くのプロジェクトを立ち上げています。その主要なプロジェクトは、科学技術の面から言えば、シリコンシーベルト福岡プロジェクト、自動車生産150万台プロジェクト、福岡バイオバレープロジェクト、ナノテクノロジー推進会議、水素エネルギー戦略会議、ロボット産業振興会議、エコタウンプロジェクトな

どである。これらを支援する産官学の連携は、経済産業省、文部科学省、福岡県、福岡市、北九州市、九州大学、九州工業大学等や福岡システムLSI総合開発センターと関連企業である。

このように北部九州で展開される自動車産業基地化に対して高速道路の充実、港湾整備の拡充、24時間運用空港の等国際物流を支える社会資本の整備について道路、港湾整備についての現状と展望について主務省である国土交通省九州地方整備局の局長鈴木 克宗氏に講演していただきました。

ついで福岡県において振興策を所管する福岡県商工部自動車産業振興室長 今村修二氏に北部九州の自動車産業の新時代を語ると題して、部品を生産する関連産業育成、雇用、産学官連携による次世代自動車の研究開発など講演していただきました。

今回の講演会は、CPD認定であり、参加技術者にとっては幅広い産業技術の動向により関心を持ったと思われます。これを機に会員がこれらのプロジェクトを支援していくことを期待しています。

協賛会員制度の終了にあたって

九州支部 副支部長 甲斐 忠義
(建設・福岡)

平成19年5月26日の支部総会で決定された協賛会員（個人）への移行制度は、本年度末（平成20年3月末）を以って終了しました。協賛会員数は、167名を数えました。この1年間協賛会員の皆様には、支部運営に格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。平成19年度は、技術士法が昭和32年5月に制定されて50周年を経過した年でありましたが、この節目の機会に支部においては、「技術士活動はいかにあるべきか」をテーマとして、シンポジウムを開催しました。会員はもとより外部有識者の貴重な意見を聞くことが出来ました。九州支部としては、結論として「技術士は業務拡大のため外に出よう」という活動方針としました。技術士の社会貢献の活

動を積極的に行動し、延いては、技術士の知名度を上げようとするものです。

九州支部会員（準会員含む）も1300名を超える等組織も順調に拡大し、組織活動も充実してまいりました。これもひとえに、会員一人一人が技術士会を支えようとする情熱の現われであると思います。正会員の拡大化は、技術士の社会的地位向上のために必要なことは言うまでもありませんが、今後会員拡大が進めば、会員のCPD受講費の値下げ、各県・地区会員への研究調査活動・交流等補助金の増額等が可能になり、会員へのサービスが一段と向上します。協賛会員でありました方々の正会員登録をよろしくお願い申し上げます。

協 賛 会 員

……………[福 岡]……………	平和測量設計(株)	東洋測量設計(株)
いであ(株)九州支店	(株)松本組	西日本コンサルタント(株)
(株)エスケイエエンジニアリング	(株)唯設計事務所	(株)日建コンサルタント
(株)カミナガ	……………[北九州]……………	日進コンサルタント(株)
(株)九州地質コンサルタント	環境テクノス(株)	松本技術コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所福岡支店	(株)九州設計事務所	……………[宮 崎]……………
(株)構造技術センター福岡支社	九和設計(株)	(株)アップス
(株)サンコンサル	(株)酒見設計	九州工営(株)
新地研工業(株)	(株)太平設計	(株)弓場水コンサルタント
第一復建(株)	(株)都市開発コンサルタント	(株)ケイディエム
(株)大建	(株)松尾設計	(株)国土開発コンサルタント
大成ジオテック(株)	……………[佐 賀]……………	正栄技術コンサルタント(株)
(株)ダイヤコンサルタント九州支店	(株)九州構造設計	(株)白浜測量設計
(株)タイヨー設計	新栄地研(株)	(株)ダイワコンサルタント
大和コンサル(株)	西日本総合コンサルタント(株)	南興測量設計(株)
(株)高崎総合コンサルタント	日本建設技術(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
中央開発(株)九州支社	……………[長 崎]……………	(株)東九州コンサルタント
(株)東京建設コンサルタント九州支店	扇精光(株)	(有)福島測量設計調査事務所
東邦地下工機(株)	(株)実光測量設計	南日本総合コンサルタント(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	大栄開発(株)	(株)都城技建コンサルタント
西日本技術開発(株)	太洋技研(株)	(株)宮崎産業開発
西日本コントラクト(株)	西日本菱重興産(株)	(株)ロードリバーコンサルタント
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	……………[熊 本]……………	……………[鹿児島]……………
日本工営(株)福岡支店	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	(株)九州開発エンジニアリング	(株)建設技術コンサルタンツ
日本地研(株)	……………[大 分]……………	コアツ工業(株)
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	九建設計(株)	中央テクノ(株)
(株)福山コンサルタント	九州特殊土木(株)	(株)久永コンサルタント
(株)富士ピーエス	ダイエーコンサルタント(株)	
富洋設計(株)九州支社	大洋測量設計(株)	

九州支部平成20年度 第1回CPDのご案内

日時 平成20年4月26日(土) 10:00~17:00

場所 福岡商工会議所ビル301号

(〒812-8505福岡市博多区博多駅前2-9-28
Tel: 092-441-1110)

研修内容と講師

1) 田中康順氏

(福岡北九州高速道路公社・理事長)

【演題：都市高速道路の維持管理(仮題)】

2) 手計太一氏

(福岡大学工学部社会システム工学科・教授)

【演題：福岡大学サッカー場で実施した雨水流出抑制工法の透水効果について】

3) 三浦哲彦氏

(㈱軟弱地盤研究所・理事長、工博・技術士)

【演題：環境保全に配慮した軟弱地盤上道路築造について】

4) 山下公輔氏

(PwCアドバイザリー(株) シニアアドバイザー)

【演題：海外におけるPFIの実例について(仮題)】

■参加費(資料代)：1人3,000円(当日徴収。なお、昼食・飲料等は各自負担をお願いします。)

■参加申込先：(社)日本技術士会 九州支部

TEL: 092-432-4441 FAX: 092-432-4443

参加ご希望の方は、下記のいずれかの方法にてお申し込み下さい。①を推奨します。

①支部ホームページ「CPD案内」、

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>の「詳細」よりCPDメール申込フォーム記入の上送信

②所要事項をご記入の上、九州支部宛FAXにて送信

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士1・2008

- ・年頭挨拶／高橋 修
- ・人権宣言としての技術者倫理／伊藤 博
- ・第39回世界技能五輪沼津大会と光通信今昔物語／西澤紘一
- ・ものづくり技術の継承と材料強度信頼性／小賀正樹
- ・金属疲労による最近の事故と予知保全法について／齋藤雅彦
- ・第27回地域産官学と技術士との合同セミナー／岡田包儀
- ・温室効果気体による地球温暖化の長期予測／西澤慶一

[PE] 技術士2・2008

- ・自由な発想のできる環境を／小西幸成
- ・技術者の責務と権限／佐藤国仁
- ・IT法務リスク管理と技術士の役割／小西洋三
- ・ロボットの安全／稲垣荘司
- ・TGVの高速試験と最近の高速鉄道／島田健夫三

[PE] 技術士3・2008

- ・技術とは？／進士五十八
- ・原子力学会倫理規定に係る議論と技術倫理／鳥飼誠之
- ・新聞業界における近年のIT活用の潮流／木村 稔
- ・材料と安全／植木正憲
- ・男性から見た化粧品と化粧品技術／秋葉恵一郎
- ・核融合エネルギーの研究開発／桂井 誠
- ・イチゴ研究と有機資源利活用での最前線の取組み／石川秀勇

編集後記

平成20年度がスタートし、九州支部では新年度から協賛会員制度がなくなりました。長年、九州支部と九州技術士センターの2つの組織でお互い役割分担しながら活動を共にしてきましたが、昨年のセンター廃止に続き、今年3月の協賛会員終了をもって九州支部の体制が整いました。

そして、公益法人制度改革が今年の12月からスタートします。九州支部を取り巻く環境も少しずつ変化してきています。気持ちを新たに、日々邁進したいものです。

国内に目を向けると、今年になって餃子事件が日中間で大きな社会問題となっており、いまだ原因が特定されていません。昨年から続発している「偽装」もエスカレートし、私たちの最も身近な食の安全をも根底から揺るがす事態となってきております。

私たち技術士も倫理の問題に今一度立ち返り、気持ちを引き締め、一人一人が社会のために貢献できるよう日々努力していきたいものです。

今年度もよろしくお願いいたします。(棚町)

発行：(株)日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページURL:

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社